



地域交流 サポート 情報紙

NPO たまりば

平成 25 年 6 月 9 日発行 NO. 1

「災害ボランティアセンターコーディネーター養成講座」を受講

2011.3.11 東日本大震災から多くを学び、「防災・減災・復旧」に、強く関心を持つようになりました。

公助は、災害直後から3日後と言われており、道路・水道等のインフラが改善されれば、災害ボランティアセンターから支援ボランティアの派遣が開始されます。

「NPO たまりば」では、2012年03月24日 「町田市社会福祉協議会 町田ボランティアセンター」主催による、「災害ボランティアセンターコーディネーター養成講座」に、参加。

「横須賀災害ボランティアネットワーク」・「町田災害ボランティアの会」のみなさんから、被災後、地域・県外の支援ボランティアの受け入れから派遣までの疑似体験を通し、派遣される支援ボランティアの安全と効率的な活動から支援ボランティアを受け入れる側にとっても、重要であることを学びました。



ボランティアセンターとは



センター疑似体験



意見交換

「自助」： 家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、自分で守る事を言います。

「共助」： 地域の災害時要援護者の避難に協力したり、地域の方々と消火活動を行うなど、周りの人たちと助け合うことを言います。

「公助」： 市役所や消防・警察による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のことを言います。

災害時には、自助・共助・公助が互いに連携し一体となることで、被害を最小限にできるとともに、早期の復旧・復興につながるものとなります。

◆ 災害ボランティアセンターとは

地震などの災害時に、全国から集まるボランティア活動を行いたい希望者とボランティア活動を必要とする方々との間に立って、両者の思いを実現するための結びつけを行うことを目的としたセンターのことです。

災害時、センターでコーディネート（結びつけ）を行うために必要な知識と技術が必要となり、いざという時に、センターの運営者として活動できる人が必要とされます。

<http://youtu.be/6NetAStpfdY>

◆ 参加者による災害ボランティアセンター立ち上げ体験

震度 6 強の直下型地震発生、一部のライフラインと主要道路が回復したので、町田市にボランティアセンターを立ち上げます。

参加者は、ボランティアセンターの運営担当者と一般ボランティアのグループに分かれ、各ブースでの役割と活動先への誘導を疑似体験しました。

センターは、4 つのブースからなります。

A) ボランティアの受付と登録

受付票や登録書、ボランティア保険の説明と登録

B) ボランティアのマッチングと送り出し

活動先を紹介し希望者を決定する

C) 資機材渡し

活動先に必要な機材を渡し、送り出す

D) フォローとケア

ボランティアから活動の報告を受け、明日へのニーズに結びつける

<http://youtu.be/4fTLJbN5G1E>

◆ まとめ・意見交換・反省

- ・ 床には、誘導用テープでブース案内があれば。
- ・ 作業量が多いため仕事の分業化と 1 班 4 人が理想。
- ・ 資機材の管理が、作業効率を決める。
- ・ 総合案内ブースの設立で、ボランティアの怪我や悩みのフォロー
- ・ 1000 人のボランティアコーディネーターが必要

<http://youtu.be/ClyzDdTxbnk>

◆ 町田災害ボランティアの会 紹介

いざという時の備えに、日頃から地域の町内会自治会の防災・減災につとめ、「町田市社会福祉協議会 町田ボランティアセンター」の登録団体として、さまざまな形で、協力関係にあります。

<http://youtu.be/NaHUh1L9KUM>

「町田市社会福祉協議会 町田ボランティアセンター」では、毎年、希望者を募り、講習会を開催し、コーディネーターの育成を図っています。

スマートフォンからの観賞は、こちらから

- ◆1 災害ボランティアセンターとは
- ◆2 参加者による災害ボランティアセンター立ち上げ体験
- ◆3 まとめ・意見交換・反省
- ◆4 町田災害ボランティアの会 紹介



1



2

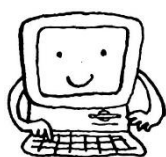


3



4

NHK スペシャル 番組の紹介



第一回 次の直下地震はどこか

～知られざる活断層の真実～

自然界への挑戦ではなく、来る災害への人災・防災・を考えることが、ベスト！？

<http://www.nhk.or.jp/special/detail/2013/0407/index.html>

◆「たまりば」とは

福祉住環境コーディネーターが集まり、町田をひとつの福祉コミュニティ構築の場「たまりば」として選びました。

少子高齢化が進む日本に於いて、老後を「介護保険」などの制度や措置に頼るだけでなく、自立した生活ができる場が求められています。これに鑑み、各世代が地域と情報を円滑に共有し、老後の生活設計をサポートするための情報交流の場作りを促進します。

- 「朝早くに目が覚めたけど、家族に迷惑をかけずにコーヒーが飲みたい！」
- 「買い物や年金の引き出し、通院などの途中でちょっと休みたい！」
- 「いつでも、健康や住まいのことを相談する場がほしい！」
- 「私の話しを聞いてもらえる場がほしい！」

こんな時ってありませんか?? 「たまりば」がお手伝いします。

◆ 活動内容

- 【1】 町田市の社会福祉協議会、生涯学習センター、集合住宅などの活動団体と連携し、高齢者・障害者・若者が集い、情報交流できる場の創設とイベント企画
- 【2】 高齢者住宅、介護施設の見学会や勉強会、セミナー等の開催
- 【3】 建築関係者・福祉関係者・福祉住環境コーディネーターによる、高齢化や障害に伴う、諸問題や介護保険に関する相談の受付および住宅相談・改修業者への取次ぎ

◆ 定例会

町田市在住の福祉住環境コーディネーター協会理事である鴫田一夫氏を中心に、2009年5月より12名が集まり、前出の理念のもとに、長寿少子化社会に不可欠な認知症の理解と介護、福祉介護の法律相談、高齢者の介護予防、成年後見、住環境改善のそれぞれの専門家と連携して活動しております。

毎月第2日曜日に町田市民フォーラムなどで定例会を開催しておりますので遠慮なくご参加下さい。参加をご希望の方は、下記EメールまたはFAXで事前にご連絡下さい。

会員募集

「たまりば」では会の活動に協力していただける会員を募集しています！ 学生・一般の方・建築関係者・医療関係者・福祉関係者・福祉住環境コーディネーターを取得されている方、興味をお持ちの方など、どなたでもご入会できます。

申し込みは <http://www.npotamariba.org>
あなたも活動に参加してみませんか！



ロゴマークの動物？
鹿と兎、友情と奉仕を表しています

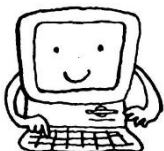
NPO たまりば

代表 金木 和夫

連絡先 〒194-0004 町田市鶴間
661-1-2-210

TEL・FAX 042-799-1894

Eメール kaneki@df.catv.ne.jp



「神奈川県ライトセンター」見学会

視覚障害と住環境整備 講演と施設内見学

2013年9月26日 午後2時から4時

申し込み：kaneki@df.catv.ne.jp